

たんぽぽ通信

Dandelions

2025. 5

始良市立加治木幼稚園便り

PHONE 62-2502

FAX 62-2524



加治木の幼稚園の歴史

家庭教育学級の中でも少しお話したのですが、加治木の幼稚園の歴史について知る機会があったので、紹介したいと思います。

きっかけは、先日のことです。登園が終了して門扉を閉めた直後に、高齢の女性の方から声を掛けられました。

「子どもたち可愛いですね。ちょっと、外から見せてもらってもいいですか。実は、私もこの幼稚園を出たんです。もう88歳で昔のことですけどね。」

その方は、しばらく子どもたちの様子を見守り、笑顔で帰って行かれました。

女性の年齢から考えると、昭和15年頃に幼稚園があったということになります。ちょっと不思議に思い、沿革史を開いてみることにしました。すると、次のような歴史が記してありました。

「文化と教育の町、加治木町では、昭和の初め頃、町婦人会長 曾木 タツ 女史を中心に、町内勇士の奉仕によって、旧加治木中

「こどもの日のつどい」きりん組手作りの鯉のぼりが 青空高く泳ぎました

学校校門前（現加治木高等学校前）、当時の青雲舎隣に幼稚園が開設された。

昭和11年現在地にあった加治木実科高等女学校の県立移管（加治木高等女学校として現在の合同庁舎敷地に移転）に伴い、旧校舎が撤去された。

昭和12年町婦人会長 日野 キン 女史を中心に婦人会の力によって現在地に園舎が建設され、幼稚園教育が終戦前まで続いた。

終戦後、この幼稚園教育が自然中絶し、園舎は郡の教育事務所が借用していた。

昭和27年4月に私立加治木幼稚園として発足。

昭和48年4月に加治木町立加治木幼稚園となる。園舎も新設。園児数152名。

平成22年3月。3町が合併したことにより始良市立加治木幼稚園と改名。」

なるほど。お会いした88歳の方が3～5歳の頃には、確かに今の敷地に幼稚園があったということになります。

大正15年、幼稚園令が施行され、幼稚園教育が始まったとされます。今と同じ3～5歳が対象で、保育内容として遊戯、唱歌、観察、談話、手技等があったそうです。

時代とともに変化しながら、脈々と受け継がれている伝統や思いを知り、改めて幼児教育の重み、大切さを感じました。

【4・5月のキラリ 活動紹介】

「こども読書の日」・・・お話の世界へようこそ！親子でも読み聞かせを！



青いポケットをたたくと、おばけがどんどん…。そんなポケットはこわいからいらない！

金のガチョウにみんなについて、一緒に歩いたり歌ったりして、すっこけたよね！そしたら、やっとお姫様が笑ったね！ほくも金のガチョウに触ってみたいかな。

園では、毎日たくさんのお話と出会います。学級での毎日の読み聞かせ、誕生会や「ぐるんば（お母さんたちの読み聞かせ）」さんによる全員で聞く読み聞かせ。子どもたちの大好きな時間です。また、毎週金曜日には市立図書館の本を借りて帰ります。親子の読み聞かせには次のような力があると言われています。ぜひ御家庭でも親子で本に親しんで欲しいと思います。

- 1 言葉の理解が進み、発音の仕方や文章のつくりが自然と分かってくる。
- 2 絵や文等からイメージを膨らませ、話の世界に浸ることで創造性や発想力が豊かになる。
- 3 気持ちを理解したり同感したりして、心（感情）が豊かになる。
- 4 心地よい時間で心が安定して、親子の絆が深まる。 など

「栽培の日」食育活動・・・自分たちが育てた野菜は食べてみたくなる！



くんくん。トマトのにおいがするね。ほんとだ。いいにおい。「高リコピントマト」って名前だっ。お世話してパワーおくるから、美味しいトマトができますように。

すごーい。でかっ。まだまだあるよ。たくさん採れたね。卒園したきりん組さんが植えてくれた玉ねぎだっ。カレーの日にほくたちが切って料理するんだよね。



きゅうりの名前は「シャキッと」と「かっぱめし」って言うんだって。お水をあげたら、どんどん大きくなって、黄色い花が咲いてるよ。

かけっこをしたり、親子でふれあい活動をしたりしたよ。お父さんお母さんも友達も一緒にたっくさん遊んで、すごく楽しかったね。お家の人が作ってくれたお弁当も、すごく美味しかったよ。

親子一日遠足」・・・陶夢ランドでふれあい活

